

令和元年11月より串本町で建設が始まった日本初の民間ロケット発射場「スペースポート紀伊」。事業を行うスペースワン株式会社は、令和3年夏に発射場の完成、同年度中の打ち上げを目指し、工事が進められている。

打ち上げられるロケットは、全長18メートル、重さ23トン程と小型だが、地上から500キロの低軌道に150kgの衛星を上げる能力がある。「当社が開発しているロケットは、H-IIAやH-IIBといった巨大なものではありませんが、JAXAなどの優れた技術をベースに開発しています。また発射点だけのように思われているかもしれませんが、計測機器を含む全ての部品は、各パートナー企業の工場から陸路で届けられ、この「スペースポート紀伊」で組み立てられます」と語るのは同社社長の太田信一郎さん。

一昔前と比べ、現在ではカメラや携帯電話などに使われる技術は進歩し、通信や観測機

本州最南端の串本町は、宇宙に最も近い町になる

器などの小型化や精度も驚くほど向上し、それに伴い衛星の小型化も進展した。「そういう意味でも今後は“小型衛星の打ち上げ”小型ロケットの需要は増加すると考えています。そこで当社は“世界最短”の打ち上げと“世界最高頻度”の打ち上げを掲げ、将来的には年間20機のロケットを打ち上げる予定です」。

そんな中で発射場を建設するためには、様々な条件が求められる。「一つ目は南または東方向に開けていて、陸地がなく安全であるという地理的な条件。二つ目は部品などが陸送できるという経済効率的な条件。これらの条件を全てクリアし、発射場建設に一番適していたのが、ここ本州最南端にある串本町だったのです。しかし最も重要で大切な条件は、地元の人々に歓迎されていることでした」と太田社長。

南国特有の真っ青な空が広がる串本町は、宇宙に一番近い町となる。



スペースワン太田信一郎社長

和歌山県串本町で感じるワクワクを皆様と共有したい！

民間ロケット発射場の建設は、日本においてはじめてです。スペースワンが考える最も大切なことは事業の継続性です。人類に残された最後のフロンティアは宇宙と深海とよくいわれます。やはり宇宙という言葉を見ると年齢に関係なくワクワクしますよね。串本町でもロケット発射場の建設に伴い、子供や学生さんたちだけでなく、住民の方々にも関心を持ってもらっています。そして今までになかった産業として、多くの方々に良い影響を与えられればと考えています。私も何度となく伺っていますが、本州最南端である串本町は風光明媚で食べ物が美味しいところです。これからも地元の皆様に夢を届けたいと思っています。

串本町より打ち上げられるスペースワンのオリジナルロケット「ガイロス」。



①



③



④



②

①串本町荒船海岸近くに建設中の「スペースポート紀伊」の発射予想図。周囲を山々に囲まれ、南方に陸地や島がないのがわかる。②③「スペースポート紀伊」は、総合司令棟、ロケット組立棟、発射点、ロケット保管庫その他付帯施設から構成されている。写真手前が「発射点＝ロケットの打ち上げを行う場所」。発射点の向こうに見えるのがロケット組立棟。④ロケット打ち上げのイメージ図（※①④スペースワン株式会社提供）。